

みんなやお友だちには、それぞれ得意なことや得意ではないことがあります。どんなことが得意で得意でないかは、人それぞれ違いますね。好きなこと、好きな食べ物、好きな色、好きな漫画、好きな歌、みんな一人ひとり違います。顔も声も、感想や考え方も一人一人違います。それが、その人らしさであって、その人らしさって一人ひとりみんな違ってみんないいですよ。それを「もちあじ」って言います。きっと聞いたことがあると思います。自分の、また、その人の良いところや強みもその反対のところも全部ひっくるめて「もちあじ」です。

今日は、みんなと詩を味わいたいと思います。かねこみずずさんの「私と小鳥と鈴と」という詩です。作者の金子さんは、山口県先崎で生まれ、26歳の若さで亡くなりました。短い生涯の中で、心温まる詩をたくさん書いた人です。

・・・・・・・・・・・・・・・・（詩を読む）

今の、かねこみずずさんの詩の最後に「みんなちがって みんないい。」という言葉あります。その言葉の前には「すずと ことりと それからわたし」とあります。題名では「わたしと ことりと すずと」でした。でも、詩の最後では、「わたし」を最後にもってきています。なぜでしょうか。

かねこさんは「みんながいるからわたしがいる。みんなとわたしはどっちも大切」と考えていたから「すず」と「ことり」を最初に持ってきたのです。かねこさんにとって「すず」も「ことり」も「わたし」とおなじくらい大切な存在だったのです。そんな気持ちを込めて、かねこさんは「みんなちがって みんないい」と言ったのです。

さて、みなさんは、かねこさんのように友だちのことを大切にしていますか。「死ね」とか「消えろ」などと言っていないですか。もしみなさんがかねこさんのように友だちやすべてのものを自分と同じように大切にしようと思えたのなら、きっと「みんなちがって みんないい」の意味が分かるようになると思います。